

3 図書館協議会による図書館運営全体に対する評価（委員長とりまとめ）

(1) 基礎的サービス評価について

個人貸出冊数、HP（トップページ）アクセス件数、市町村等への貸出冊数（長期一括貸出を含む）、及び、「B」評価とされているが入館者数についても、日常的な取り組みの実績として高く評価するとともに、来年度以降も同程度の実績となるような着実な取り組みを期待する。

一方で、新規登録者数に関しては、県の新採用職員研修や退職者説明会における広報活動等は評価されるものの、「より広くPR活動を実施し、新規利用者層の開拓が必要である」とする図書館の考え方に賛同する。例えば、利用登録が必要な音楽ライブラリーの利用促進や、郵送による利用カードの申し込み手続きの簡略化、平成30年度より開始される「広域サービス充実事業」を契機とする市町村立図書館等での広報活動や利用カードの登録申し込み受付など、様々な局面での打開策の検討・実施が望まれる。特に、新潟市民以外の登録者の割合を増加させることが必要である。

(2) 「広域サービス充実事業」について

来年度からの「広域サービス充実事業」の開始により、市町村立図書館との相互貸借（協力貸出）における長年の懸案事項が解決されたことは、大変喜ばしい限りである。これまで以上に市町村立図書館等との連携・協力が期待される。県立図書館職員も十分に認識されている通り、新規事業であることから、丁寧な説明による周知など、市町村立図書館等の職員及び利用者の混乱を極力回避する必要がある。また、適切な指標を設定することにより、事業の成果を表すことも必要である。

(3) 平成30年度の運営基本方針・事業計画・評価指標等について

もとより運営基本方針等は図書館自身が決定するべきものである。しかしながら、郷土資料、越後佐渡デジタルライブラリー、県内市町村等への訪問相談・訪問研修の開催が、繰り返し評価指標とされる近年の状況は危惧されるところである。従って、平成30年度の運営方針、重点事業、評価指標等については、以下の事項を含めて、図書館において改めて検討したうえで策定していただきたい。

- ・ 館内サービスにおける県立図書館としての、「専門的、先導的役割」とは何か。
- ・ 県内全域の県民へのサービスとして、優先的に実施する必要があるのは何か。
- ・ 他機関（大学図書館、試験研究機関及び県内の各種機関（民間・行政等））とは、どのような（及び、どのように）連携を図っていくか。

さらに、協議会委員より以下の要望も出されている。

- ・ 児童・生徒を対象として、映画の上映会以外にも、調べ学習に通じるようなイベントも実施してほしい。また、絵本に対する関心を高めるために、あるいは、理解を深めるために、絵本作家による講演や読み聞かせを実施してほしい。

- ・ 思考能力を養う上で読書は不可欠であることから、読書に関する図書館の取り組みを期待している。
- ・ 図書館でのボランティア活動について、興味はあるが参加に躊躇している人々もいると思われる。ボランティアが図書館行事の説明をしたり、図書館のバックヤードツアーを実施するなど、一般の人々や子どもたちがボランティア活動に接する機会があるとよいと思う。
- ・ 図書館への公共交通手段を確保するために、バス会社との交渉等が望まれる。

最後に、充実した図書館サービスの提供には、十分な図書館費と職員体制が必要不可欠であることは強く指摘しておく。